

漁海況通信

長崎県総合水産試験場 漁業資源部 海洋資源科
 〒851-2213 長崎市多以良町 1551-4 電話 095-850-6304 FAX 095-850-6346
 ホームページアドレス <http://www.marinelabo.nagasaki.nagasaki.jp/>

トビウオ漁況予報
「今年のトビウオ（小トビ）の来遊量は平年を上回るでしょう」

予測の考え方

- 本県において、トビウオ類は5～7月に主に定置網で産卵親魚が漁獲され、9～10月に船曳網や定置網でその年生まれの未成魚（小トビ）が漁獲されます。
- 漁獲されるトビウオ類は、春～夏にはホソトビウオ（丸トビ）とツクシトビウオ（角トビ）の2種ですが、秋にはこれにホソアオトビが加わった3種となります（図1）。
- 秋に漁獲される小トビは、初夏に九州北西部から日本海西部の海域で生まれ、成長しながら南下していく途中の群と考えられます。
- これまでの研究から、小トビの漁獲量の変動要因として、産卵親魚の量、日本海西部海域の水温、漁期中における北よりの風の日数などが挙げられます。

予測の根拠

- 産卵親魚の量
 今年5～7月の本県標本地区における定置網でのトビウオ類の漁獲量は、角トビでは平年並み、丸トビでは平年を上回ったことから、産卵親魚の来遊量は、トビウオ類全体としては平年よりもやや多いと考えられます。
- 日本海西部海域の水温
 日本海西部海域における7月の旬別平均表層水温は、24～28℃台と平年に比べてかなり高めで推移していることから、小トビの回遊条件としては良好であると考えられます。
- ※漁期中における北よりの風の日数
 漁場形成に影響を与える漁期中における北よりの風の日数は予測できないため、平年並みと仮定しました。

以上のことから、**今年の小トビの来遊量は『平年を上回る』**と予測しました。

上回る	並み	下回る
平年の1.2倍以上	平年の0.8～1.2倍	平年の0.8倍以下

【参考】標本地区におけるトビウオ類（小トビ）漁獲量（図2）

※平年は過去5カ年平均値：約131トン

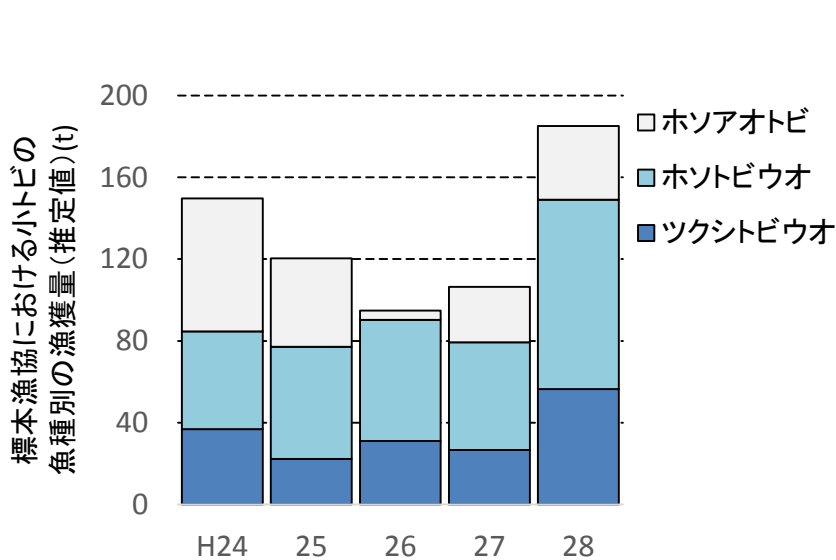


図1 標本漁協におけるトビウオ類（小トビ）の魚種別漁獲量（推定値）

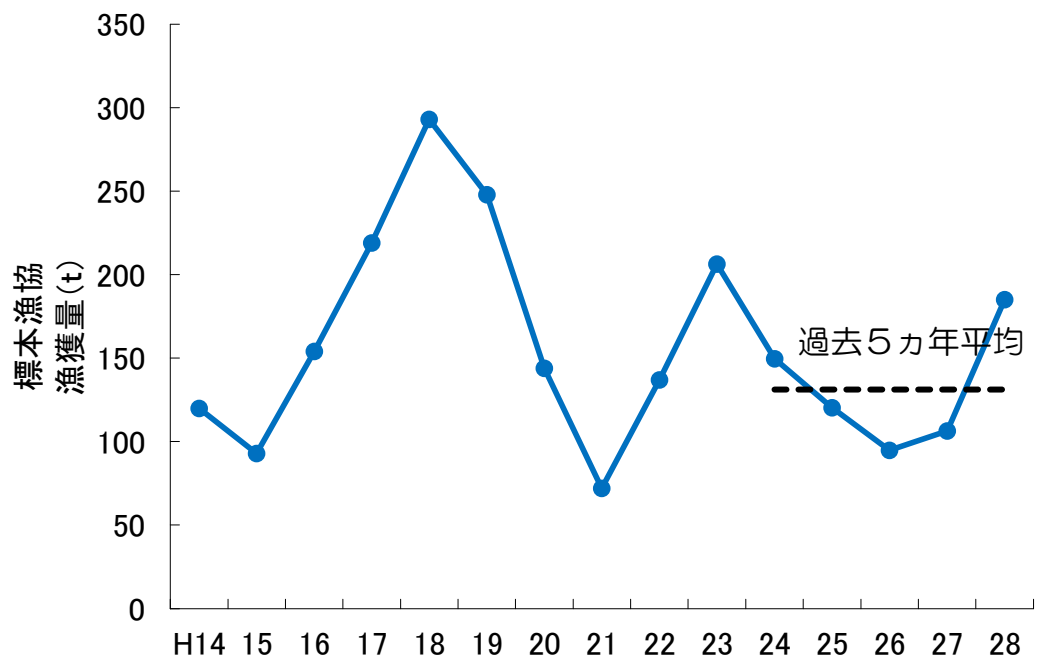


図2 標本漁協におけるトビウオ類（小トビ）漁獲量